

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 8 施策 1 全国に発信できる特色をつくる	情報発信は、市行政側だけでなく多くの人が、今の熊谷市の状況、そして愛する「熊谷」への思いを色々な眼で、世界へ発信することこそ必要だと思う。	ご提案のように、今後も、郷土「熊谷」の様々な情報を、全国へ、また、世界へ向けて発信し続けていきます。
p 10 施策 2 歴史再発見のまちを推進する	妻沼聖天山本殿が一般公開されたが、めぬま観光駐車場の利用はかなり少なく、県道の商店街を歩く人も増えていない。駐車場の看板に「市営」の文字があるため有料と思われ、利用されないのではないか。大きく「無料」と表示すべきだ。	「無料」駐車場として、ホームページやチラシ等で周知します。ご意見のような、「無料」表示は、事業実施の段階で参考としていきます。
	坂田医院旧診療所の建物を、めぬま観光駐車場の玄関窓口と考え、屋内を改修し、美術、文化活動の拠点施設にする。定期演奏会、発表会、ギャラリー、会議室、観光案内所、お休み処の機能を持たせてはどうか。	坂田医院旧診療所については、平成 25 年度から年末年始を除く土日祝祭日に一般公開する方向で検討を進めています。活用方法については、事業実施の段階で参考としていきます。
	熊谷には数多くの歴史的資料や文化的遺産があるが、計画の 10 頁に明記されているとおり、「現状では、個別の文化遺産やまつりでの情報発信と集客は一時的である」。これらの観光資源をよりよく活用するために、史料と文化財を集約した熊谷市資料館の設立事業を是非進めていただきたい。	資料館の建設により、集客や、史料の公開・活用も図れるため、必要性は認識しておりますが、資料館の建設を直ちにこの計画に盛り込むことは現実的に困難であると考えます。現在、（仮称）スポーツ・文化村（市立女子高等学校跡地）内に熊谷歴史文化伝承室や平和資料展示室を整備するとともに、北部地域振興交流拠点施設（仮称）への郷土館的機能の導入も検討しております。ご提案の内容については、将来的な課題として伺います。
p 12 施策 3 スポーツによるまちづくりを推進する	荒川や利根川沿いの区域を利用して、マラソン又は駅伝を実施してはどうか。	熊谷さくらマラソン大会(10km、ハーフ)では、荒川の熊谷桜堤沿いをコースの一部として実施しておりますので、ご提案として伺いました。
	各小学校別に子供たちと保護者の運動会は行われているが地域住民も参加出来る様にしてはどうか。自治会長を主体に出来ないものか。	小学校の運動会と地域の運動会を別々に行っている地域もあれば、合同で行っている地域もあります。地域がコミュニティの醸成のため多世代で行う活動については、引き続き小学校区連絡会を中心に支援していきます。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 12 施策 3 スポーツによるまちづくりを推進する	地域によっては、低額料金の市営のスポーツジムがあるが、熊谷でも同様の施設があると良いと思う。有れば知りたい。	市の施設としては、健康スポーツセンターや熊谷さくら運動公園内アクアピアがあり、県の施設としては、熊谷スポーツ文化公園熊谷ドーム内の施設がありますので、ご利用ください。
p 14 施策 4 市民活動を育成・支援する	NPO 法人等への補助金支出に当たっては、団体の目的や活動内容を十分に審査し、有意義な活動をしている団体（ほとんどはそのような団体だと思いが）に限定すべきである。	補助金の交付は、公益性のあるものに限定して実施しています。今後も、未成熟な団体も含め、NPO 法人やボランティア団体をはじめとする公益的な活動を行う市民活動団体を支援していきます。
	主な事業の「市民活動講座の開催」について、リーダー養成講座ではなく、例えば、講座の中でグループ分けをして実践活動を行い、そのグループから自主的にリーダーを選出するような仕組みを取り入れてほしい。既存のグループに新人は参加しにくいし、活動の広がりや阻む要素もある。現在リーダーである人を育てることも必要であるが、自主性を活かした多種多様なグループを養成しニューリーダーを増やすべきである。	「市民活動講座の開催」については、既存のリーダーだけでなく、新たな市民活動団体や新たなリーダーも育成・支援していこうとするものですので、ご意見の趣旨は計画に含まれています。
	主な事業の「自治会活動推進事業」に、「町会の統廃合」を加えてほしい。昨今、地域住民の高齢化が進む一方で、町会の存在意義が薄れ新規に加入する人も少なく、廃止してもやむを得ない状況がある。	自治会は自主的に組織された任意団体であり、行政には一般的な監督権限はありませんので、町会の統廃合を市の施策に加えることはできません。しかしながら、自治会活動の充実については、自治会連合会を通じて、引き続き働きかけていきます。
	地域コミュニティの復活。例えば、学校での盆踊りを復活させる。これを各地でやるだけで地域コミュニティの復活が取り戻せる。	地域がコミュニティの醸成のため多世代で行う活動については、引き続き小学校区連絡会を中心に支援していきます。
p 18 施策 5 人権尊重のまちをつくる	単位施策 7「人権啓発を推進し、人権意識の高揚を図る」を、憲法精神である「基本的人権の尊重」を生かした施策に変更する。人権尊重を同和問題に限定せず、男女同権、子どもや高齢者の人権も含めた施策に変更する。	人権啓発の推進や人権意識の高揚を図ることについては、同和問題に限らず、子どもや高齢者、女性への対応など、様々な人権を含めた施策としていますので、計画の表記はそのままとしました。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 18 施策 5 人権尊重のまちをつくる	単位施策 8「人権教育を推進し、人権尊重の心をはぐくむ」の主な事業の中に「集会所事業等の見直しと効果的活用」が新たに入っているが、集会所の利用・事業実態からみて、公民館やコミュニティセンターと同様の一般施策として位置付けるべきだと思うが、見直しの方向を具体的に記載すべきだ。また、ハートフル学級については、中止すべきだと考える。放課後等を利用して補習をする必要があるとすれば、すべての学校で行うべきである。	公民館は、生涯学習の機会の提供を主な目的としています。これに対し、集会所は、人権教育の推進が目的で、市民の人権啓発・人権教育に大きな成果を上げています。それぞれの施設が目的達成のために必要であると考えますので、計画の表記はそのままとしました。 ハートフル学級については、今後の検討課題として伺います。
p 20 施策 6 国際理解、国際・国内交流を推進する	単位施策 9「国際理解、国際・国内交流を進める」は、不要である。近年、個人による国際理解、国際・国内交流は著しく進んでおり、地方自治体が主導で上記事業を推進していくことに違和感がある。熊谷市国際交流協会は市と切り離し、助成金も支出せず、民間団体として活動すべきである。できれば、国際交流ではなく、市役所内に「国際情報センター」のような組織を設置することが重要であると思う。現実的で詳細な外国人に関する情報を収集整備し、市役所内外からの如何なる問い合わせにも対応できる体制を整えておけば、行政サービスに直接つながる事業となる。	本市の現状から、外国人に関する情報収集等のみならず、人的な交流を支援することも重要であり、「国際理解、国際・国内交流を進める」は、必要な施策であると考えます。 ご意見については、今後の検討課題とさせていただきます。
p 22 施策 7 男女共同参画社会を確立する	市の広報等で”育メン”を紹介してほしい。企業（特に中小企業）の子育て支援についても、啓発してほしい。	夫妻が協力しての育児、男性の育児休暇取得及び企業の育児支援などについて、「女(ひと)と男(ひと)の情報紙 ひまわり」に掲載するとともに、“イクメン”に関連するセミナーも開催しました。 今後も、引き続き取り組んでいきます。
p 24 施策 8 平和なまちをつくる	熊谷空襲の悲惨な体験を風化させないためにも、市内の適地（例えば、被害の最も大きかった星川通り）に常設の記念館を建設すべきである。現状では、平和の祈念に役立つ施設が不十分と思う。	（仮称）スポーツ・文化村（市立女子高等学校跡地）に、熊谷空襲関係を中心とする常設の平和資料展示室を計画しています。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 24 施策 8 平和なまちをつくる	国がやるべきことを市がやっても意味が？また過去を知れば平和が続くというのも？市民目線では、平和は”ピース”ではなく”セーフティ”に近いイメージ。	国だけでなく、地方公共団体など様々な組織で重層的に平和に関する事業に取り組むことで、市民への周知や意識啓発ができると考えます。また、平和への意識を高めるため、過去から学ぶことは重要であると考えます。
p 26 施策 9 犯罪の起こらない環境を整備する	通り魔やストーカーなどの犯罪等が増加しているため、プライバシーや費用の問題はあると思うが、不審者が多いと思われる要所に監視カメラの設置を検討してほしい。	防犯環境の整備及び犯罪抑止のため、熊谷駅と籠原駅の周辺に、合計で 19 台の防犯カメラを設置しています。
	老朽化した空き家対策が構築されていないので、課題として提案する。核家族化と少子化の影響から熊谷市内には今にも倒壊しそうな老朽化した家屋（木造）が少なからず見受けられる。不審者の侵入や火災、地震、台風による倒壊が予想されるため、老朽空き家管理条例を制定して、早急に対策を構築してもらいたい。	空き家の苦情があった場合は、現地調査を行い、所有者に対して不動産の適切な管理を依頼しています。今後は、他の自治体の取組も参考にしながら、所有者自らが個人の財産である家屋等を適切に管理する責任を果たすよう指導を継続していきます。条例制定については、ご提案として伺いました。
p 28 施策 10 災害に強いまちをつくる	熊谷市地域防災計画にもあるが、医療救護活動における体制とネットワークの構築を組み込んでどうか。震災により、その地域の救急医療は機能しなくなる可能性があることを想定した上で、近隣地域とのネットワーク構築と連携体制が必要ではないか。	この計画は、施策の基本方針を示し、災害に強いまちづくりを図るものです。ご意見の内容は、熊谷市地域防災計画の中で取り組んでいきます。
	現状と課題の最後の行（p 28）「加えて、国民保護法に基づき、国民保護対策を推進する必要があります。」を削除するとともに、主な事業（p 29）の中の「・国民保護計画推進事業」を削除すべき。国民保護法は、他国からの侵略を想定した法律で、他国からミサイルや核で攻撃された場合、この法律では市民の生命財産を保持できないから。	ご意見として伺いました。 有事の際の被害軽減のため、国県等関係機関と連携し、一体となって施策を推進していきます。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 28 施策 10 災害に強いまちをつくる</p>	<p>本庁舎耐震化は、災害に強い街づくりとしてのシンボルであり、早急な対策が必要と思う。ただし、地震災害に過敏過ぎてもいけない。過度に頑丈な補強を考えるべきではない。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画の中に含まれていますので、計画の表記はそのままとしました。</p>
	<p>施策の体系に、単位施策として「日常的訓練」を追加する。人間繰り返し訓練をすることで応用が可能となる。</p>	<p>ご意見の趣旨は、施策 10 を効率的に実施するための手段として伺い、事業実施の段階で参考としていきます。</p>
<p>p 32 施策 11 交通事故の減少・防止を図る</p>	<p>登校時の児童の列に車が突っ込むような事故の対策として、通学路になっている住宅地などの狭い道路にスピード防止用の障害（ハンプなど）を設置する。特に、抜け道になっている道路では、強制的にスピードを落とさせる必要があると思う。</p>	<p>住宅地でのハンプの設置は、騒音、振動等の新たな問題が発生してしまいます。そこで、歩道等のない狭い通学路の安全対策としては、外側線とグリーンベルトの設置を実施しています。</p>
	<p>最近、自宅の周辺その他市内の各所で自転車の暴走を毎日のように見ている。夕刻に歩道上を無灯火かつ猛烈なスピードで走行するのは極めて危険だ。最近、一部のマスコミで自転車のプラス面ばかりが強調されているが、行政は、自転車のメリット・デメリットについて多方向から考えてほしい。</p>	<p>自転車の関係する交通事故が、多く発生しており、これまで以上に自転車の交通ルールへの遵守とマナーの啓発・普及に努める必要があります。市では、子どもから高齢者までを対象とした交通安全教室や年 4 回実施する交通安全運動などで、チラシを配布するなどの街頭啓発キャンペーン等を行っています。</p>
	<p>利用度の低い歩道を積極的に自転車道として開放する。特に田舎地域は歩行者も少なく、中学生の自転車通学を担保することができる。</p>	<p>自転車は車両の一種であり、車道と歩道の区別があるところでは車道を通行するのが原則です。歩道を自転車が通行できるのは、公安委員会が設置した「自転車歩道通行可」の標識や道路標示がある場合に限られます。現在、幅員 3m 以上の歩道の一部にこの標識があり、自転車で通学のできる歩道となっていますので、ご提案として伺いました。</p>
<p>p 36 施策 13 消防力を強化する</p>	<p>火災原因の周知・広報を行う。N I T E（独立行政法人製品評価技術基盤機構）の公開情報から関係あるものを広報紙に載せる。特に電気製品等が原因の火災は注意すべき。</p>	<p>火災原因の周知・広報のご提案として伺いました。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 40 施策 14 高齢者が元気に暮らせる環境をつくる</p>	<p>人生 90 年時代の到来を見据え、「高齢者も社会の支え手」になるような施策を喫緊の課題として立案することを希望する。従来の社会保障制度下では「支えられる」側だった高齢者が、意欲と能力があれば「支える」側になれるようにし、高齢者を一律に弱者と見てきた従来の意識を変えることが必要と思う。</p>	<p>P41「基本方針」に「豊富な知識や経験を発揮できる場を提供することにより、高齢者の社会貢献と自立を促進します。」と記載したとおり、「支える」側としての高齢者も念頭に置いていますので、ご意見の趣旨は計画に含まれています。</p>
	<p>玉井の県農業試験場周辺は、農地、温泉、リハビリ施設等がある。田舎や田畑への関心がある団塊の世代を中心に、高齢者の生きがい育てるモデル地域をつくらうか。</p>	<p>団塊の世代の高齢化を踏まえた意見として、今後の参考にします。</p>
	<p>主な事業に「市民後見人の育成及び活用」を追加してほしい。本年 4 月の老人福祉法の改正により、市町村の努力義務として、市町村長による後見等の審判請求が円滑に実施されるよう、後見等に係る体制の整備を行うことが規定された。市において、既に成年後見制度利用支援事業を実施していることは承知しているが、弁護士や司法書士などの専門職でない第三者の後見人の必要性は年々増加しており、ぜひ市民後見人の育成と活用を検討してもらいたいと思う。家庭裁判所も市役所の近くにあり、市民にとっても活動しやすい地域であると思う。まずは、埼玉県で 2 番目となる、国が進める「市民後見推進事業」に手を挙げてほしい。</p>	<p>市民後見制度の啓発と適切な活用については、この計画を推進していく中で検討します。</p>
	<p>高齢者が、自発的な活動を始めやすくするような仕組みが必要。現状の施策だと、高齢者に対し提供するだけになっている。高齢者が持つ力や能力・知恵を世の中に生かしていないのではないか。</p>	<p>P41「基本方針」の中の「豊富な知識や経験を発揮できる場を提供することにより、高齢者の社会貢献と自立を促進します。」との記載が、高齢者が持つ力や能力・知恵を世の中に生かしていくことを念頭に置いたものですので、ご意見の趣旨は計画に含まれていると考えます。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 40 施策 14 高齢者が元気に暮らせる環境をつくる	高齢者に関する施策の体系に「介護施設の拡充を図り、施設サービスを充実する」を追加すべき。市内の要介護認定者で介護施設利用を希望する市民が待機状況にあるため、これを解消するべく事業者と協力して施設拡充をすすめる。	介護保険施設の整備については、大里広域市町村圏組合の「介護保険事業計画」の中での取組となります。
p 44 施策 15 障害者が暮らしやすい環境をつくる	身体・精神・知的障害者への妥当・適切な支援の継続と一層の拡充をお願いしたい。	施策を推進する中で、今後も一人ひとりの個に応じた支援を図っていきます。
p 46 施策 16 楽しく子育てできる環境をつくる	高齢者ボランティアの活用をすすめ、子育ての補助としていろいろな経験を生かし児童の放課後の遊び等を推進する。皆豊かな経験を持つ高齢者との触れ合いは、子供達にとっても本当の社会勉強になると思う。	P46「現状と課題」の中の「安心して楽しく子育てができる環境を整えるには、地域で子育て家庭を支え合う気運を高める」との記載が、高齢者を含めた地域の方が、子育て支援に関わることを念頭に置いたものですので、ご意見の趣旨は計画に含まれていると考えます。
	単位施策 28「子育てしやすい環境を整備する」の主な事業の中の「乳幼児等への医療費助成」を「子ども医療費助成の拡充」とするべき。	「乳幼児等」の「等」の字に「小中学生」を含めていますので、計画の表記はそのままとしました。高校生まで医療費の助成を拡大することは、扶助費が年々増大していることから、財政状況等を総合的に勘案し、検討すべきものと考えます。
	単位施策 28 の主な事業の中の「乳幼児等への医療費助成」を「子ども等への医療費助成」に変更し、高校生まで医療費を助成する。	
p 48 施策 17 地域で支え合う心をはぐくむ	地域の民生委員サポーターを任命する。民生委員の方が広い地区を一人で受け持っているので、サポーターを任命して細かいサービス・支援ができると良い。	民生委員を取り巻く状況が変化し、様々な負担が増加する中で、サポート強化は重要なことと考えますので、この計画を推進していく中で参考とします。
	孤独死防止のため、一人住まいの高齢者を対象に見回りを行ってはどうか。	支援を必要とする単身高齢者に対しては、民生委員による見守り活動を行うほか、異変に気が付いたときの連絡等、民間事業者への協力を要請していますので、引き続き、計画を推進する中で取り組んでいきます。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 48 施策 17 地域で支え合う心をはぐくむ</p>	<p>自治会や民生委員、ボランティアなど、その地域を支える人達に対して何か支援する必要があるのではないかと。自治会や民生委員は、高齢化が進み、担当区域も広く、これ以上機能しないし、ボランティアも資金難などにより活動継続が困難な団体も多くある。</p> <p>単位施策 29「地域で支え合う仕組みをつくる」の主な事業として「社会福祉協議会との連携（・・・、福祉ボランティア組織の育成・支援）」とあるが、市の福祉施策の大きな柱として独自の事業が必要。従来の社協の事業はマンネリ化が目立ち、現状のままでは、成果指標「福祉ボランティア数」の後期めざそう値の達成は難しいと思う。</p>	<p>自治会に対する支援については、引き続き熊谷市自治会連合会を通じて実施していきます。民生委員に対する支援については、この計画を推進する中で強化に努めます。ボランティア活動に対する支援についても、社会福祉協議会と連携を図りながら、この計画を推進する中で取り組んでいきます。</p> <p>ご提案として伺い、この計画を推進する中で、社会福祉協議会との連携を強化し、「福祉ボランティア数」のめざそう値達成に努めていきます。</p>
<p>p 50 施策 18 市民の健康づくりを支援する</p>	<p>熊谷薬剤師会でも、地域住民の健康促進事業の取組として、様々なイベントを行っているが、市の協賛で何か企画できないか。</p>	<p>現在は、「後援」という形で協力しており、今後も多くの市民が参加できるよう市報等により PR していきます。なお、新規事業の共同開催については、今後の検討課題とします。</p>
<p>p 52 施策 19 医療体制を充実する</p>	<p>休日・夜間急患診療所の薬局業務で、お薬手帳（手帳用シール）の発行を検討してほしい。休日・夜間急患診療所にお薬手帳を持参する患者さんも多く見受けられるため。</p> <p>大学病院を誘致し、輪番制でなく、救急救命医療センターとして機能する病院をつくる。簡単ではないが、できるだけ早い時期に作ることで人口の増加にもつながり安心した生活ができる。</p> <p>単位施策 32「救急医療体制を充実する」の成果指標「救急医療に従事する病院数（熊谷・深谷地区）」について、現状値 8 件に対し、後期めざそう値も 8 件で同じなのはなぜか理解できない。救急医療の充実は市民の最も熱望する施策である。</p>	<p>薬剤師の情報を記載した用紙の発行を検討しています。</p> <p>ご提案として伺います。現在、国では、医学部の新設よりも、既設の医学部の医師養成数を増加させることに重点を置いて医師不足に対処する考えを示しており、新たに医学部を設置（誘致）することは、極めて困難です。</p> <p>熊谷市内ではすでに 365 日の救急医療を実施しており、新たな救急病院の参入が見込めず、現状維持を目標としました。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 58 施策 22 ごみの発生を抑制し、再利用を促進する	ごみの発生を抑制することが一番だが、なかなか難しい。焼却施設の計画的整備をする際には、焼却熱を利用した発電施設を導入してはどうか。	現在推進中の「ごみ処理施設長寿命化計画」は、既存施設の設備・機器の改修を図るものであり、発電施設の導入は盛り込んでいません。 ご意見の焼却熱を利用した発電施設については、将来の施設新設の際の検討項目の一つとして考えています。
p 60 施策 23 地球温暖化対策を推進する	太陽光発電は多くの自治体で推進しているが、スマートメーターについては、推進している自治体は少ない。他の自治体に先駆け、熊谷市として普及の促進を行ったらどうか。	スマートメーターの導入促進については、国が普及に向けた制度的枠組みを構築する方向で検討中であり、事業者（東京電力）も全利用者への導入を計画中のことですので、市としては、当面はこれらの取組を見守りたいと考えます。
	公民館等の建物の新・改築の際に、ソーラーによる自家発電設備を設置し、ソーラーのまちとしてはどうか。当地は“暑い”だけでなく晴れの日も多く日照時間もあるので、まちをあげ各家庭にも広めてはどうか。	ご意見の趣旨は計画の中に含まれていますので、計画の表記はそのままとしました。
	単位施策 39「新エネルギー施策を推進する」の成果指標「太陽光発電システム（10kw 以上）を導入した市有施設数」のめざそう値が「26 か所」とあるが、1年間に3か所の計算となる。学校の体育館建て替え時の導入にとどまらず、さらに促進すべきである。26か所よりさらに増やすべき（公民館や総合文化会館など） また、売電を導入していく方向を入れるべき。	ご意見の趣旨は計画の中に含まれていますので、めざそう値も含め、計画の表記はそのままとしました。
	熊谷のエネルギー政策についてもうちよつと加えてほしい。このまちのエネルギーをこのまちで作り出そう（エネルギーの地産地消）。蓄電システムも含めて。	ご意見の趣旨は計画の中に含まれていますので、計画の表記はそのままとしました。
p 62 施策 24 農業環境を整備する	作物に害を与える動物（狸、ハクビシン、アライグマ）の駆除を推進する。狸、ハクビシンは捕獲しても処分できない。被害地域が広がっており更なる問題になる。	害鳥駆除事業は実施していますが、害獣に対しては、一部の特定外来生物（アライグマなど）に対するものを除き、現在実施していません。ご意見については、今後の検討課題とします。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 64 施策 25 農業の担い手を育成する</p>	<p>農業従事者の高齢化や後継者不足については、毎月決まった給料が入る仕事に魅力を感じている若者に、農業の魅力を知ってもらうようにするのが、これからの課題だ。</p>	<p>ご意見の趣旨は、事業実施の段階で参考としていきます。</p>
	<p>土地を借りて農業していた方々が高齢になり、耕作しなくなった土地を返却するのだが、返された農家も農業する人がいないため遊休地になっている。現在、組合組織で農業している方々を積極的に法人化するように進める。</p>	<p>ご意見の趣旨は、計画の中に含まれています。</p>
	<p>県立農業大学校の移転は、農業の担い手の確保のためとあるが、学生のレベル、卒業後の進路など考慮すべきことが多いと思う。だれもが大学へ入れる今、県立という立場の学校が開校するのだから、しっかり勉強してもらいたい。</p>	<p>ご意見の趣旨は、計画の中に含まれています。</p>
<p>p 68 施策 27 商業を活性化する</p>	<p>星川を活用してまちなかの活性化を図ってはどうか。例えば、うなぎを養殖、屋台村、川の上の喫茶店（床面ガラス張り）でコーヒータウンとして名乗りを上げる、など</p>	<p>ご提案の内容については、熊谷市中心市街地活性化基本計画（現在策定中）の実施の段階で参考とします。</p>
	<p>単位施策 46「歩いて楽しめる商店街をつくる」の中に「魅力あるストリート等を整備する」とあるが、これまでのやり方とどう違うのかを明確にしてほしい。整備することでかえって人の通行量が減少してしまう場合もあるので、整備する必要があるのかも含め、ビジョンを明確にてほしい。</p>	<p>整備の方向性（ビジョン）としては、例えば、個性のある商店の起業促進による歩いて楽しめる商店街の形成や、オープンカフェなどハード整備にとどまらない付加価値を持ったストリートの形成などを目指しています。ご意見は、熊谷市中心市街地活性化基本計画（現在策定中）の中で参考とします。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 70 施策 28 企業活力を高める</p>	<p>企業の活力を高めるのは自助努力が基本だが、市内業者の育成については、行政として、地域の競争力を高めることも必要と思う。</p>	<p>国内外の厳しい経済情勢下、企業の新製品開発や新分野への進出等に対する支援は、企業間の競争力を高め、底上げを図ることにより、市内全体の産業振興に寄与するものと考えます。また、埼玉県全体では、企業立地促進法に基づく基本計画により、本市を含む県北ゾーンの企業集積は、自動車関連産業及び食品産業を中心とする位置付けがなされています。これら関連企業の集積を推進することにより、自ずと企業間の競争力も高まり、市内業者の育成にも資するものと考えます。</p>
	<p>単位施策 49 の「中小企業を支援する」の主な事業の中に、「住宅リフォーム助成事業」を加える。不況にあえぐ市内中小業者の仕事確保のため</p>	<p>住宅リフォーム制度については、福祉や環境、耐震等に特化したもので対応していますので、新たに中小企業支援策として盛り込むことはせずに、計画の表記はそのままとしました。</p>
<p>p 74 施策 29 地域の特色を生かしたバランスの良いまちをつくる</p>	<p>JR 熊谷駅、籠原駅等の利用客の多い主要駅周辺に、総排気量 51CC 以上の原付二種や自動二輪が停められる駐輪場を設置することを、基本計画に入れてほしい。現状では駐輪場が無いため不便であり、路上駐車の原因にもなる。県北最大の都市であるにもかかわらず、設置数が少ないと思う。</p>	<p>熊谷駅周辺での自転車駐車場の整備については、熊谷市中心市街地活性化基本計画（現在策定中）の中で計画しています。また、籠原駅周辺での自転車駐車場の整備についても、電線地中化や駅前広場の整備など区画整理事業の進捗に合わせて計画しています。これらの計画の中に、自動二輪等の議論も含めていきたいと考え、計画の表記はそのままとしました。</p>
<p>p 74</p>	<p>新幹線のとまる熊谷市街化区域の見直しや市民の意見を取り入れた許認可の対応できる制度をつくる。人口の増加が熊谷市の財政を豊かにすることにつながる。企業誘致がむずかしい時代、東京のベッドタウンとしては最適である。例えば、新幹線通勤の一部補助や期間限定の固定資産税の割引といった方法をとる。</p>	<p>リーディング・プロジェクトに「人口増」プロジェクトを位置付け、定住人口のみならず交流人口の増加に向け、この計画の施策全体で取り組みますので、ご提案として伺いました。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>施策 29 地域の特色を生かしたバランスの良いまちをつくる</p>	<p>駅正面口やメインストリートに子どもたちの目にふれさせたくないような店があると、熊谷のイメージが悪くなる。そのような店とファミリーで利用するような店を区域的に分けられるとよいと思う。</p>	<p>ご意見のように一定の制約を定めるためには、都市計画法上の「地区計画」の設定が必要となります。熊谷駅の東部等で定めていますが、地域住民、地権者等の同意が必要であり、すでに様々な利用がされていますので、地域の皆さんの意見を聞きながら集約する形での実施となります。p75「基本方針」の中の「また、地区の特性に合わせたまちづくりとして地区計画の指定拡大などに努めます。」との記載が、以上の内容を念頭に置いたものですので、ご意見の趣旨は計画に含まれていると考えます。</p>
	<p>広い平坦地があることから自転車を普及させることに力を入れるべき。自転車走行レーン、夏でも涼しくめぐる緑のコースづくりなど、市民参加で決めていく。まちの特色を生かすため・作り出すためにも、自転車はキーポイントになる。具体的事業としては、歴史スポットめぐり、太陽光発電つき自転車開発、健康増進のための親子ポタリング・シニアポタリング、商店街めぐり（自転車でのお買物客にサービススタンプ）、荒川利根川サイクリング（自然楽しみコースの設置）など</p>	<p>中心市街地活性化事業の中で、中心市街地の自転車通行帯の設置を計画しています。具体的なコース設定やご意見のような事業については、今後の検討課題とします。</p>
	<p>施策 29 の基本方針（p75）の4行目の「地区計画の指定拡大などに努めます」を「実情に合わせた事業見直しを図ります」に変更し、単位施策 53「土地区画整理事業を推進する」を「土地区画整理事業の見直しを図ります」に変更する。上之土地区画整理事業は、今後 10 年以上の工期と公金の支出が予想され、市財政に大きな負担となるため適宜見直しを図る必要があるから。</p>	<p>土地区画整理事業については、適宜見直しを実施しています。ご意見の上之土地区画整理事業については、現在事業計画等の変更についても検討を進めていますので、現状に合わせて計画の内容を修正しました。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 78 施策 30 熊谷らしい景観をつくる	熊谷らしい景観とは？国道の両側は商店かパーキングに変わってしまったく面影がなくなっている。元に戻すのは大変だが、計画性をもって開発してほしい。	景観については、行政で一定の考えを示すべきものとは考えていません。どのような景観がふさわしいか市民皆様のご意見をいただき、議論を進め、地域の景観の将来像を考えていきます。まずは、景観を考える機運を創造していきたいと考えています。
p 84 施策 33 機能的な幹線道路を整備する	市道については良く進められていると思うが、《上尾道路》の早期開通を望む。県南方面へのアクセスは 17 号国道が最短距離であるが、北本・上尾地域の渋滞は慢性的で、時間が正確につかめず、東松山 I.C から外環を利用し戻る状況である。熊谷が大きくなるには、交通網の整備は欠かせないと思う。	上尾道路の事業促進については、市としても国に要望しているところです。今後とも要望活動を継続していきます。
p 86 施策 34 公共交通を充実する	<p>ゆうゆうバスをあと 2 便（午前と午後）増便してほしい。市内は他の交通（バス）もあるが、離れた地区は朝 1 台乗りすぎすと足がなくなったり、帰りは 1 時間以上待つこともしばしばという声を聞く。</p> <p>単位施策 58 の主な事業の「・熊谷市ゆうゆうバス運行の見直し」を「・熊谷市ゆうゆうバス運行事業の拡充」に改める。今期総合計画は、更なる高齢者社会の到来を基本としている。市民が高齢になっても自由に移動ができる体制がますます重要な課題となってくるため、ゆうゆうバス運行の見直しではなく、デマンド交通システムの導入や熊谷市ゆうゆうバス運行の増便、新規路線の拡充などを図るべきだ。</p>	ゆうゆうバスについては、市からの補助金により民間バス事業者が運行しています。増便やルート変更、バス停の新設など様々なご要望を頂いておりますが、財政状況を勘案しつつ皆さんが利用しやすいバスとなるよう研究を進めていますので、ご提案として伺い、計画の表記はそのままとしました。
p 88 施策 35 人でにぎわう緑あふれる公園をつくる	公園には面積等の法令上の制約があると思うが、法定以外の公園にも助成制度があればと思う。地域の方々に使用していただくため、土地を提供し、地域で手作り公園を造ったが、地域の方々が草刈等含め維持管理している。このような「公園」を対象とした助成制度がほしい。	ご提案の内容については、法令上の公園として取り扱うことはできませんので、公園として助成対象とすることはできません。しかしながら、地域コミュニティ活動又は市民活動としてとらえることができる場合は、別の制度の助成対象となる可能性もあります。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
p 90 施策 36 上下 水道を整備 する	単位施策 60 の主な事業の「・事業の民間委託拡大」を削除する。安全でおいしい水の供給は、更なる民間委託拡大では確保できない。何でも民間委託がいいとは限らない。特に市民の生活に欠くことができない水の安定供給のために民間委託は慎重に	民間のノウハウを取り入れて経営の効率化を図ることが、「安全でおいしい水」を安定供給するために必要であると考えますので、計画の表記はそのままとしました。
p 94 施策 38 学 校・家庭・地 域が連携し て子どもを 育てる	小学校、中学校それぞれは学校応援団など、地域と連携しているが、小学校と中学校はそれぞれ別々に活動している。小中学校の教員の連携を図ったらどうか。	ご指摘の小中学校の教員の連携については、理科の授業で中学校の教員が小学校での出前授業等を行うなど、一部ではすでに実施していますが、今後は、外国語活動などにおいても、連携を図りたいと考えます。
p 102 施策 41 たく ましく心豊 かな子ども を育てる	学校薬剤師の活動として、薬の適正使用に関する指導や薬物乱用防止の講習を、更に充実したものにできると良い。現在、市内の学校には、学校薬剤師として、担当薬剤師が配置されているが、より多くの児童・学童に対し、充実した教材、アイテムを用いて、薬の適正使用や薬物乱用防止に関する講習を行い、これを強化できると良い。	薬の適正使用に関する指導や薬物乱用防止については、各小中学校において、すでに講習会や研修会が実施されています。今後も、「医薬品の正しい使用」についての保健学習が一層充実するよう推進していきます。
p 104 施策 42 魅力 ある生涯学 習事業、施設 を拡充・整備 する	旧市立女子高校の活用方法として、飲食可能（酒類を含む）な施設を整備してはどうか。また、盆踊り大会やおでんのコンテストを実施してはどうか。	市立女子高等学校跡地は、幅広い世代の市民が、生涯にわたってスポーツ・文化に親しむことのできる合宿や研修による宿泊も可能な生涯学習施設（仮称）スポーツ・文化村として整備する計画です。ご提案のイベント、特にそれに伴い酒類が提供される場合は、生涯学習という施設整備の目的と異なりますので、実施は困難です。

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 104 施策 42 魅力ある生涯学習事業、施設を拡充・整備する</p>	<p>直実市民大学、けやき大学等で「社会貢献」の講義を取り入れるとともに、実践体験もカリキュラムに入れる（学校や社会教育関連講座でも）。</p>	<p>直実市民大学の年間のカリキュラムは、年間 30 回の共通学習と、20 回のクラブ活動で構成されており、社会貢献の講義は実施していません。しかし、クラブ活動は卒業後も継続され、いくつかのグループは、社会福祉施設の慰問等の自発的な社会貢献活動を行っています。また、けやき大学は 11 の学科があり、年間 15 回の学科別授業と 7 回の共通講座で構成され、社会貢献の講義は実施していません。しかし、学科によっては花植え等の自発的な社会貢献活動を実施しています。ご意見の趣旨は、事業実施の段階で参考とします。</p>
	<p>県立図書館と市立図書館では、市立のほうが便利という声も聞いた。図書館の充実とあるが、とにかく蔵書を増やしてほしい。本の痛み・汚れが目立つが、職員が丁寧に補修していると思う。子供たちにも良い本をたくさん与えたいと思う。</p>	<p>合併により、市立図書館は 4 館となり、全体の蔵書数も増え、他の図書館から取り寄せることもできます。基本的な児童書、お勧めの本などの複数購入や買え替えも進めています。今後も市立図書館の一層の充実に努めます。</p>
<p>p 106 施策 43 芸術・文化活動を支援する</p>	<p>文化センターは駅から近いため便利で、市外のお客もよべるが、駐車場が狭いのが難点と思う。</p> <p>スポーツは今までだいぶ力を入れてきたので「文化・芸術のまち」に力を入れたい。</p>	<p>現時点で文化センターの駐車場を拡張整備する予定はありませんが、ご提案として伺いました。</p> <p>来年度、（仮称）スポーツ・文化村（市立女子高等学校跡地）が一部オープンします。これは、スポーツのみならず、文化・芸術の分野における育成活動・創作活動の核となる施設として整備されますので、オープン後は、これまで以上に市民のスポーツや文化・芸術活動を推進できるものと考えます。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 108 施策 44 健全な財政運営を行う</p>	<p>経費のことだけを考えて職員を削減したり、安易に多様な雇用形態を導入したりしないほしい。雇用形態が異なる人も公務員に守秘義務があることは承知していると思うが、実際に義務を果たせるか不安がある。また、窓口で、市民が何かを尋ねたとき、いくつかの職場を経験してきた職員であれば、知らないことでもネットワークを使って答えることが可能である。担当以外のことは「知りません」では、市民へのサービスとしていかなものか。</p>	<p>職員の定員適正化は、人件費削減だけを目的とするのではなく、業務量や業務内容に応じ、部門ごとの減員又は増員の要否を検討しつつ、進めていくべきものと考えます。また、雇用対策や組織の活性化の観点から、常勤職員だけでなく、広く優秀な人材を活用していきます。</p>
<p>p 116 リーディング・プロジェクト</p>	<p>将来都市像にも入れられた「川と川」を資源として活用するため、リーディング・プロジェクトに組み込むことが必要である。リーディング・プロジェクトとしては無理であれば利根川、荒川の両河川の緑地を結ぶ道路から始めて市域全体を緑で埋めつくす熊谷改造事業ともなる「森の街熊谷を造成する」という施策を取り込めると、温暖化対策としても有効であり、市街地活性化、コミュニティ形成、「住みよい熊谷」の形成にも有効である。</p>	<p>基本構想において、川が持つ自然環境を象徴するイメージを重ねて将来都市像「川と川 環境共生都市 熊谷」を定めました。この計画に掲げた施策全体でその実現を目指していますので、ご意見の趣旨は、この計画の中に含まれています。</p>
<p>p 117 あつさ はればれ 熊谷流プロジェクト</p>	<p>「暑いぞ！熊谷」の記念イベントを実施し、大勢の人を集めることで、地域の活性化を図ってはどうか。</p> <p>「あつさ はればれ 熊谷流」や「暑いぞ！熊谷」など何種類もキャッチコピーがあり分りづらい。</p>	<p>ご意見の趣旨は、あついぞ！熊谷 冠エンタリー事業等において、それぞれの団体が主体となり取り組んでいますので、そのままとしました。</p> <p>それぞれの事業内容を最もよく表す名称であると考えますので、事業名についてはそのままとします。ご意見の趣旨は、今後新たな事業を設ける際に、参考とします。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
<p>p 119 中心市街地の活力・にぎわい創出プロジェクト</p>	<p>まちづくり会社が主導する空き店舗・遊休地対策は、どのように行われるのか、また、どのような基準で会社を選定するのかをしっかりと住民に発信してほしい。</p> <p>中心市街地活性化基本計画に関連する問題点を指摘したい。</p> <p>1 整備に当たっては、現在の住民・事業者・地権者などへの影響を徹底的に検討してほしい。</p> <p>2 来街者を増加させるには、来街者のそれぞれに適した各種の交通手段の充実（駐車場・駐輪場の整備も含む。）が必要だ。ゆうゆうバスなどの公共交通の整備は一つの試みだが、利用者が極めて少ないという結果を重視しなければならない。</p> <p>3 道路空間の再配分、景観条例の拡充・強化も検討しているようだが、規制・制限の増加によって、土地の利用方法が限定的なものになり、来街者の減少、地価・マンション価格・賃貸料の下落などをひきおこす危険もある。</p> <p>4 自転車利用の過度の評価には問題があり、昨今の自転車利用者などの法令無視・軽視の風潮は強まることはあっても弱まることはないと思う。</p>	<p>まちづくり会社が実施する空き店舗・遊休地対策は、所有者と相談しながら、その地区に適した事業展開を構築していくものです。また、まちづくり会社の選定に当たっては、単に利益を追求するだけでなく、広くまちづくりに関し公益的な観点を有することを基準としています。これらの情報については、熊谷市中心市街地活性化基本計画（現在策定中）の実施の段階で、住民に発信していきます。</p> <p>中心市街地の整備に当たっては、権利関係者や地域住民と一体となって取り組んでいきたいと考えますので、ワークショップや説明会等を開催しながら推進するように努めます。他のご意見の内容は、中心市街地活性化基本計画（現在策定中）の実施の段階で参考とします。</p>
<p>p 121 人口増プロジェクト</p>	<p>基本構想の将来都市像には将来人口 23 万人とあるが、このプロジェクトには、具体的には記載がない。23 万人という目標は大きすぎると思うが、具体的に記載しないのか。</p>	<p>9つの政策とリーディング・プロジェクトに掲げた施策を着実に実施することにより、魅力ある都市として、将来人口 23 万人を含めた将来都市像の実現を目指して取り組んでいきます。</p>

熊谷市総合振興計画後期基本計画（案）に対する意見と市の考え方

該当箇所	意見の概要	市の考え方
計画全体	<p>施策を融合させて効率的に行っていく必要があるのではないか。歴史や文化を学ぶ場は学校だけでなく、商店街や祭り、スポーツの中からもできる。それぞれの施策を独立して行うのではなく、結びつけながら効率的に行っていく必要があると考える。</p>	<p>9つの政策とリーディング・プロジェクトに掲げた施策全体で、将来都市像の実現を目指して、有機的に取り組んでいきます。</p> <p>なお、各施策については、実施計画を策定し、相乗効果が図られるよう進行管理に努めます。</p>
	<p>具体性が見えづらく漠然としている。施策全体に一貫したものが見えない。緑豊かで、災害も少なく、アートな、市民が集うまち熊谷は自転車タウンでやさしいまちである。</p>	
	<p>必ずしも新規に何かをやるのではなく、市民が住みよい地域作りに力を入れる事の方が大切。税金が安く環境が良ければ十分魅力がある。よって政策の先頭にくるのは、「安心健康なまちづくり」ではないか。</p>	<p>政策・施策の順番は重要性の順番ではなく、この計画に掲げた施策全体で将来都市像の実現を目指していくものです。ご意見の趣旨は、事業実施の段階で参考とします。</p>

いただいた意見等のうち、単に賛否が記載されたものや、感想が述べられたものについては、その概要を公表するのみとします。具体的には、次のとおりです。

- ・ 高齢者集いの場でなく、スポーツ・文化村としたのは、素晴らしい発想だと思う。
- ・ 企業間の競争による新しい街づくりを期待している。
- ・ 江南図書館を利用しているが、充実していると思う。
- ・ 職員の削減等立派に取り組まれており、健全財政を進めるうえで、頼もしい限りだ。
- ・ 電子入札制度については、県内でも1、2位を競うほど、丁寧に進められていると思う。
- ・ 施設を造ることも活性化のために必要だが、愛情を持って丁寧に利用することが一番。
- ・ 街の発展戦略は色々考えられるが、5つの大きな目標を提言しており、素晴らしいと思う。
- ・ 駅のエントランス・階段アート等は素晴らしいと思う。派手な企画に見えるが、「熊谷らしさ」を発信しており、大変良いと思う。